

パートで働く割合が高い日本 引退年齢六〇〜六四歳が各国でトップ

**内閣府の国際比較調査
望ましい引退年齢は六五歳**

内閣府は三月三〇日、「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」をとりまとめた。それによると、日本の場合、①高齢者はパートで働く割合が高い②健康上の理由で就労する人が多い③望ましい引退年齢は六五歳くらいと考えている——ことなどが明らかとなった。

同調査は、一九八〇年から五年おきに実施。今回（第六回）は、〇五年一月から〇六年二月にかけて、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、フランスの五カ国で聞き取り調査した結果を取りまとめたもの。各国の六〇歳以上の男女約一〇〇〇人から回答を得た。

九割近くの高齢者が就労経験有

調査ではまず、就労経験の有無について尋ねた。その結果、もともと高かったのがドイツ（九五・八％）、続いてアメリカ（九四・二％）、日本（九〇・一％）、フランス（八九・二％）、韓国（八六・四％）の順になった。

このうち日本を時系列で見ると、第二回調査（八五年）では、八四・四％だった「就労経験有」が二〇年後の今回調査（〇五年）では約六ポイント上昇し、九〇・一％となった。とくに女性については、第二回調査（七三・四％）から一〇ポイント近く上昇の八三・六％となり、女性の社会参加の広がりがうかがえる。

**引退前の仕事
主要国で「常雇」
がトップ**

就労経験ありと回答した高齢者に、「これまで一番長くした仕事」を聞いた。対象五カ国のうち、「常雇の勤め人」（フルタイムの事務系・技術系・労務系の合計）が多数派を占めたのは、ドイツ（七五・二％）、フランス（六

六・〇％）、アメリカ（六五・〇％）、日本（四九・八％）。他方、「自営業者」（自営農林漁業と自営商工サービス業の合計）がトップとなったのは韓国（六二・八％）だった。

諸外国と比べると、日本は「常雇」と回答する割合が相対的に低い一方、「パート」の割合が目立つ。臨時・日雇いを含めると一四・一％と、調査対象国で唯一の二桁台にのっている。他の四カ国（韓国九・五％、ドイツ六・六％、アメリカ五・九％、フランス三・七％）を大きく引き離す水準だ。

**高齢者の現役率
日本は低下傾向に**

高齢者が現在でも仕事をしている割合は、多い順に、韓国（四六・九％）、日本（三五・〇％）、アメリカ（三二・〇％）、ドイツ（三三・六％）、フランス（二三・七％）となった。

時系列で見ると、アメリカ、ドイツ、韓国では、高齢者の現役割合が上昇する傾向にある。他方、日本は低下傾向で、第二回調査（八五年）では、四五・四％と、二人にひとりの高齢者が働いていたにもかかわらず、第六回調査では三五・〇％と、一〇ポイント以上も低下。他国が軒並み上昇しているのは対照的な動きをみせる。

**現役高齢者の仕事
日本はパート比率が高い**

現役高齢者の仕事の内容で、「常雇」が多数派を占めたのは、フランス（五一・六％）とドイツ（四九・四％）とアメリカ（三六・二％）。とくに、フランスとドイツでは、二人に一人の割合で、フルタイムの事務・技術・労務の仕事に就いていることがわかった。

他方、「自営業者」がトップにあがったのは、韓国（六三・五％）と日本（四二・一％）だ。

**高齢者の就労理由
日本は健康上の理由が
第二位に**

現役の高齢者が今後も仕事を続ける理由については、「収入がほしいから」が四カ国（韓国六三・四％、アメリカ六〇・〇％、ドイツ四三・七％、日本



表1—就労を継続する理由

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ*		フランス	
	第1回	第6回	第1回	第6回	第1回	第6回	第3回	第6回	第1回	第6回
収入がほしいから	38.7	42.7	35.4	60.0	67.2	63.4	28.6	43.7	22.4	35.2
仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから	12.2	24.6	43.9	27.7	15.2	20.1	51.8	42.3	40.8	48.1
仕事を通じて友人や、仲間を得ることができるから	7.5	4.7	3.3	0.0	1.5	0.0	5.4	0.0	8.2	1.9
働くのは体によいから、老化を防ぐから	38.1	25.9	14.2	11.5	15.2	15.8	12.5	11.3	20.4	14.8
その他	2.7	2.2	3.3	0.4	1.0	0.8	0.0	2.1	6.1	0.0

資料出所：内閣府「第六回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」
*ドイツは第3回から対象国になる

表2—就労したくない理由

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ*		フランス	
	第1回	第6回	第1回	第6回	第1回	第6回	第3回	第6回	第1回	第6回
仕事以外にしたい事があるから	37.3	15.7	57.3	62.0	11.0	5.0	31.6	25.9	32.0	42.4
健康上の理由で働けないから	39.6	39.2	35.0	26.4	54.1	63.4	34.1	26.1	56.6	18.4
自分に適した仕事がないから	11.2	17.6	1.2	2.0	17.2	22.1	4.5	3.4	1.2	1.8
その他	10.5	26.7	6.5	7.9	15.4	8.4	28.8	38.7	8.4	37.4

資料出所：内閣府「第六回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」
*ドイツは第3回から対象国になる

四二・七％）でトップにあがった。他方、「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」（四八・一％）が首位になったのはフランスだ（表一参照）。注目すべきは、日本の第二位に「働くのは体によいから、老化を防ぐから」（二五・九％）があがったこと。他の四カ国（韓国一五・八％、フランス一四・八％、アメリカ一一・五％、ドイツ

三一・三％）と比べても、飛び抜けて高い数値を示す。この「健康上の理由」は、第二回調査（一九八五年）ではトップ（四二・〇％）に躍り出るなど、これまで日本の高齢者が働き続ける大きな動機のひとつ。時系列でみると減少傾向にあるものの、他国と比べると依然として、高い割合を示しており、日本の高齢者の健康志向の強さが

うかがえる。

実際の引退年齢 六〇・六四歳が各国でトップ

実際に仕事を辞めた年齢については、五カ国すべてで「六〇歳〜六四歳（男女計）がトップとなった（フランス六二・七％、日本四一・八％、アメリカ四一・三％、ドイツ三八・一％、韓国三七・七％）。

このうち、日本についてみると、男性は第一回調査（四二・〇％）から第六回調査（四九・八％）まで、「六〇歳〜六四歳」での引退が首位をキープしてきた。他方、女性は第一回（三三・六％）から第五回（三一・五％）まで「五〇歳代」がトップだったものの、今回調査（第六回）では、「六〇歳〜六四歳」（三五・六％）が首位に躍り出た。女性の引退年齢も、男性と同様、「六〇歳〜六四歳」が主流となりそうだ。

働かない理由 健康面に不安も

調査では、働いていない高齢者にその理由を尋ねた。

その結果、「健康上の理由で働けないから」がトップになったのは、韓国（六三・四％）と日本（三九・二％）。他方、「仕事以外にしたい事があるから」は、アメリカ（六二・〇％）とフランス（四二・四％）だ（表二参照）。

日本を時系列で見ると、第一位の「健康上の理由」はほぼ同率を保つ一方、第二位の「仕事以外にしたい事があるから」は急減している。第一回調査（八〇年）では、三七・三％を占めていたものの、今回調査（〇五年）では

半分以下の一五・七％まで落ち込んだ。「仕事以外」が、第一回調査（五七・三％）から今回（六二・〇％）までトップを維持しているアメリカとは対照的な結果となっている。

理想の引退年齢 日本は六五歳

望ましい引退年齢（男女平均）は、「六〇歳ぐらい」がトップにあがったのはドイツ（六一・四％）とフランス（五〇・二％）。他方、「六五歳ぐらい」はアメリカ（四三・五％）、日本（三九・一％）、韓国（二八・一％）となった。五カ国のうち、男性だけを見ると、フランス（五九・四％）では、「六〇歳ぐらい」、ドイツ（五三・五％）、アメリカ（四七・五％）、日本（三八・五％）は「六五歳ぐらい」、韓国（三八・三％）では「七〇歳ぐらい」が第一位にあがった。

他方、女性は、ドイツ（六二・四％）とフランス（四八・〇％）が「六〇歳ぐらい」、アメリカ（四三・四％）と日本（三四・九％）は、「六五歳ぐらい」、韓国では「七〇歳ぐらい」（二五・七％）が多数派を占めた。

注目すべきは、この二〇年間に於ける日本の女性の就業意欲の高まり。「六五歳ぐらい」までと回答した女性割合は、第二回調査（八五年）では一八・四％にすぎなかったものの、第六回調査（〇五年）では三四・九％とほぼ倍増している。年金支給開始年齢が段階的に引き上げられるなか、理想の引退年齢も上昇傾向をたどりそうだ。

（調査・解析部 遠藤彰）